

「女性のための音のサロン」を開催

パナソニック株式会社 アプライアンス社

ホームエンターテインメント事業部長 小川 理子

10 月下旬、2 日間にわたって、日本オーディオ協会としての初の女性向けイベント「女性のための音のサロン」を開催した。2 日間とも座席は満席となり、一部男性の方もいらっしやったが、ほぼ当初の目的を達成できたと思う。

私は常々、音楽を楽しむ人口の半数は女性であるし、楽器演奏にいたっては中高のブルスバンドなどを見ても大多数が女性だというのに、女性にオーディオの門戸が開かれていないのはもったいないと感じており、それを協会長に問題提起し共感していただいたことがイベント開催のきっかけとなった。



詩の朗読と、ジャズ即興でコラボレーション。音の楽しみ方をプレゼンテーション

内容は 3 部構成とし、私が女性とどのようにオーディオに関わってきたかを、テクニクス復活とも絡めてキャリアをお話するパート、詩の朗読に私のピアノ即興演奏でコラボするパート、私のミニミニジャズライブのパートである。これまでのオーディオフアンを対象としたセミナー形式や試聴会形式に加えて、別スペースを設けて、オーディオに親しみを感じていただくための工夫もした。ライティングはカフェバーのようにして、丸テーブルでスイ

ーツとコーヒーを食べて飲んでいただきながら、やわらかい話と音楽で寛いでいただく。また、プロアナウンサーの三田 佐代子さんと、慶應義塾大学四回生でアナウンサーの卵である石橋 理沙さんをゲストとして招聘し、様々な詩を朗読していただいた。とりあげたのは、中原 中也、まど みちお、金子 みすず、谷川 俊太郎、室生 犀星、という日頃はあまり経験できない言葉で、最後に今ノーベル文学賞で話題のボブディラン「風に吹かれて」の日本語訳も読んでいただいた。



キャリアの話の中でテクニクス復活を紹介。音の再生デモも実施した

私自身、これまで異なるジャンルの方とジャズ即興とのコラボレーションで、何度か面白いことをさせていただいたが、書道家の武田 双雲さんとのコラボも面白い思い出である。大きさ2メートル四方のキャンバスに、たった一文字「脈」と書かれるのだが、完成までに約3分、その3分間に、武田 双雲さんの動きにあわせてフリージャズで即興するという趣向。今回、詩の朗読とジャズ即興コラボも初体験ではあったが、言葉の間合い、響き渡る声、情景を思い起こさせる詩の内容など、一緒にコラボしていて耳から入る音に全神経を集中させて、瞬間瞬間に音を紡ぐというスリリングな経験をさせていただいた。二日間でそれぞれ、違うお二方の声で朗読をしていただいたが、音声によって私の感じ方も違うのか、違う印象の音楽が生まれた。オペラや映画も、音声と音楽の組み合わせではあるが、詩という独特の世界観にも面白い試みであった。聞いていただいていた方には感想をお聞きする機会はなかったが、どのような印象だったかも興味深い。



女性を中心に2日間とも満席でにぎわった

音楽はあらゆるシーンを演出する、なくてはならない芸術文化だと思う。その音楽を、スマホだけではなくオーディオ機器で再現する文化が存在するということ、多様な奥深い音楽の楽しみ方もあるということをもっと多くの方々に知っていただきたいと思う。

私は今後も、日本オーディオ協会の副会長職として、新たなお客様にオーディオ業界に魅力を感じていただけるように、会長、副会長や理事の方々とともに、もっとダイナミックに挑戦していきたい。また来年は、5月の音展を有楽町の国際フォーラムで開催することが決まっている。ここでも何か新しい試みで、多くの方々にご来場いただけるようにしたい。



小川 理子（おがわ みちこ）：3歳でクラシックピアノを始める。幼い頃から父親の影響でジャズに親しみ、大学時代にスタンダードジャズのピアノ、ボーカルを始める。1993年からハーレムストライドピアノスタイルを中心としたクラシックジャズのソロ、トリオ活動を開始。現在、東京、大阪などでライブ活動を精力的に行っている他、パナソニック株式会社役員 テクニクスブランド事業担当、アプライアンス社 常務 ホームエンターテインメント事業担当（兼）ホームエンターテインメント事業部長（兼）テクニクス事業推進室長、日本オーディオ協会副会長としても活動中。これまでに、ソロ、トリオ、カルテット、ニューオリンズバンドにて、9枚のCDをリリースしている。慶応義塾大学理工学部卒。